

## 「東日本大震災・原発事故」から12年を迎えて

2011年3月11日、14時46分に大地震が発生し、巨大津波によって多くの方が犠牲となりました。更に3月12日と13日には福島第一原発で水素爆発が発生したことにより、慣れ親しんだ土地から避難を余儀なくされました。あの未曾有の東日本大震災（以下、3.11という）は、亡くなられた方々だけではなく、今でも苦しみながら生活している現実がつくり出されたことを忘れてはなりません。被災された方々に謹んでお見舞い申し上げるとともに、復興に向けて今現在もご尽力して頂いている方に感謝申し上げます。

JR東労組千葉地本は「3.11」が発生後、直ちに組合員の安否を確認し、「被災した組合員宅へのお見舞い行動」「旭市のボランティア活動」などを行なながら、県外の組合員や家族へ「支援物資を被災地に届ける取り組み」「被災した組合員に届けるカンパ活動」「原発避難村支援行動」「岩手県（宮古市）、宮城県（松島町）のボランティア活動」「仮設住宅の方々に花を届ける行動」を取り組み、地域の皆さんから多くの感謝の言葉を頂きました。そしてこの運動に取り組んだ組合員からは、「災害に対する価値観が変わった」という意見や、「人は一人では生きていけない」「助け合うことの重要性を知った」などの意見を多く頂き、私たちが生きている社会の現実や人間として生きてくうえで必要なことなどを学びました。

しかし、自然災害や人間のつくり出した原発の脅威など、これまでの価値観を大きく変えた出来事から12年が経ち、私たちは当時の想いをどのように今、いかしているのでしょうか。地球温暖化により台風だけではない豪雨による激甚被害が増加し、自然災害への意識は高まっている一方で、福島第一原発事故による原発の停止から再稼働に向かっている社会の流れは、明らかに「3.11」の教訓が薄れていると言わざるを得ません。また世界に目を向けても、ロシアによるウクライナ侵攻が1年以上も続いているように、国家による戦争という犯罪が核戦争へと発展する様相まで見え隠れし始めています。改めて「3.11」から12年目を迎えた今日、私たちの日々の生活が、平和で安心して暮らせるために、どうするか考えるべきではないでしょうか。

また、2020年に日本で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症によって、ウイルスの脅威と経済活動の衰退だけではなく、人との接触を避け、お互いを疑うという社会を経験しました。これは資本主義という社会で、輪を重んじながらも常に競争に駆り立てられてきた社会から、より一層、個人を優先する社会へと変質しつつあります。そのような社会状況に準じていくように、JR東日本では必要のない日勤教育で人間破壊が行われたり、ハラスメントが横行するなど、個人を攻撃する行為が後を絶ちません。JR東労組は、「3.11」の教訓であった「助け合い」「絆」を防災・減災の議論を通じて、ヒューマニズムを養い、助け合いのできる組合員と共に、鉄路と雇用と職場、生活を守るために奮闘します。そして未加入者の皆さん、新生JR東労組に結集して、様々な難局を乗り越えていきましょう！

2023年3月11日  
東日本旅客鉄道労働組合  
千葉地方本部執行委員会